平成 29 年度第１回岩手県政策評価専門委員会

（開催日時）平成 29 年７月 21 日（金）14：00～15：10
（開催場所）エスポワールいわて３階特別ホール

１　開　会
２　議　事
（１）平成 28 年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について
※情報提供：復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況
（２）その他
３　閉　会

委員
西出順郎専門委員長、斉藤徹史副専門委員長、遠藤一子委員、工藤昌代委員、
西田奈保子委員

１　開　会
〔配付資料確認〕
〔事務局から委員６名中５名の出席により会議が成立する旨の報告〕

○西出専門委員長　皆さん、お疲れさまでございます。お暑い中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。御礼申し上げます。しかし、本当に暑いですね。今日も、てきぱきと進めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

２　議　事
（１）平成 28 年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について
○西出専門委員長　それでは、早速ですが、議事の（１）に移らせていただきます。例年の話ですが、この主要施策の成果に関する説明書、こちらの作成状況の説明をしていただきまして、続いてその他の情報提供という話になろうかと思いますが、復興実施計画の進捗状況の説明を終えた後に委員の皆さんから質疑をお願いしようと思っております。
それでは、まずこの説明書につきまして説明を事務局のほうからお願いいたしたいと思います。よろしいでしょうか。

〔資料No.１により説明〕
○西出専門委員長　ありがとうございました。
質疑においては、また後ほど一括ということで、続いて情報提供、復興実施計画に関する進捗状況、これについての説明を復興局からお願いします。

〔資料No.２により説明〕
○西出専門委員長　ありがとうございました。

では、これまでの２つの説明を受けまして、少し質疑応答をお願いしたいと思っていますが、いかがでしょうか。多分また順番にお願いすることになろうかとも思うのですが、斉藤委員、いかがでしょうか。

○斉藤副専門委員長　ありがとうございます。それでは、１点伺いたいのが、こちらの平成 28 年度の主要施策の成果に関する説明書と書いてあって、こちら資料１のほうなのでございますが、この３の（４）のところで、政策形成支援評価というものを年度後半に行うということなのですが、これはどういうものなのかということをもう少し詳細に伺えればということと、あと具体的にこちらのほうで県民意識等も含めた詳細な分析を行うということはどんなイメージなのかということをお聞きしたいと思います。

○竹澤政策推進室評価課長　今回委員の先生方にお示ししておりますのは、主要施策の評価に関する説明書ということで、28 年度の目標値に対する達成度をあらわした資料になります。政策形成支援評価におきましては、この取りまとめた指標、データだけではあらわすことができない県以外の主体の取り組み状況ですとか、あと県のほうで県民意識調査を毎年実施してございます。毎年 5,000 人を対象にして、約７割程度の回収率の意識調査を行っているところでございまして、それについては 42 の政策項目にほぼ対応するような形で、満足度ですとか重要度だとかを調査してございますので、それらを踏まえた形で次の政策形成に役に立つような評価を行いまして、それに基づいて来年度の 30 年度の事業を検討していくという、そういう流れになってございます。

○西出専門委員長　よろしいですか。いかがですか。

○斉藤副専門委員長　支援評価としては、一回この結果を受けて、８月に各担当の方々が行ってレポートにしてまとめていくというスケジュールでよろしかったですか。

○竹澤政策推進室評価課長　はい。

○斉藤副専門委員長　ちょっと早過ぎませんか。９月、10 月ですか。

○竹澤政策推進室評価課長　８月の末に各部の担当者に集まっていただいて、作成について説明をいたしまして、大体９月の中ごろをめどに各部のほうからご提出いただいて、こちらのほうで取りまとめて、こちらの専門委員会にかけてご意見を伺ってという流れになっております。

○西出専門委員長　ということですね。

○斉藤副専門委員長　はい、わかりました。

○西出専門委員長　斉藤委員さん、いかがですか。よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。では、西田先生、いかがですか。

○西田委員　ご説明ありがとうございました。私のほうから、ご質問を２つさせていただきます。

○西田委員　まず、資料１のほうなのですけれども、目指す姿指標と具体的な推進方策がございまして、それに基づいて、（３）のところで最終目標（平成 30 年度）に対する進捗状況を確認している表がございますけれども、これを見ますと、例えば２番の農林水産業につきましては、目指す姿が 50%以上達成されている指標が 90%、具体的推進方策のほうが 50%以上を達成されているというふうになっている指標が 53.8%というところで、目指す姿と具体的推進方策のほうでかなり差があるなという印象を受けました。これは、何か原因というか、こういう要因があるというのがございましたら教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○西出専門委員長　これは、農林系の方でお願いできますか。

○照井農林水産企画室企画課長　農林水産企画室の照井と申します。よろしくお願いいたします。

農林水産業の目指す姿といいますと、具体的には農業の算出額とか、あるいは林業の算出額とかいう形で、販売額とかを主に目指す姿として設置しているところでございます。販売額等につきましては、その時々の気象であったりとか、そのときの状況によって、県の取り組みだけではなくて、そのほかの要因等も含まれて販売額とか実績でやられておりまして、本来の目指す姿、一応販売額等に対する進捗としましては、順調に販売額とか生産額につきまして取り組み以上に達成が上がったものと見ております。

一方で、気象災害とかがありますと、生産額が落ちたりとかというところもありますので、一概にそれぞれ目指す姿等ときれいにリンクしにくい産業でもあるということをご理解いただければと思います。

○西出専門委員長　よろしいですか。

○西田委員　はい。

○西出専門委員長　かなり外部要因に影響を受けてしまうというところがあるがゆえに、この差が生まれてしまうということで、解釈はよろしいですよね。

○照井農林水産企画室企画課長　そうですね。大きな要素としては、そういう部分だと思っております。

○西出専門委員長　もし情報あったらお教えいただきたいのですが、時系列的に見たらどうですか。やはり時系列的に見ると、大体 90%ぐらいいつも推移しているみたいな形で考

えさせてもらえば。もしわからなかったら結構ですけれども。

○照井農林水産企画室企画課長　時系列的には、ちょっと資料を持ちあわせていません。

○西出専門委員長　ここ数年見た上で。

○照井農林水産企画室企画課長　達成状況としてはあれですけれども、23 年度震災で、目標の設定としては一旦落としております。震災による水産業の影響とか、農林業に対する影響が大きくて、その部分を下げてから、30 年度から上がるような傾向にしておりまして、その落ち込みからの回復は目標より上回って回復している状況というふうな感じで見ております。

○西出専門委員長　わかりました。結構です。

○竹澤政策推進室評価課長　済みません、若干補足をさせていただきたいと思います。
　別冊でお配りしておりますこちらの本体のほうの 49 ページでございます。中ほどに目指す姿指標といたしまして、農業算出額、林業算出額、漁業生産額、右端のほうに達成度、Ａとなっておりますけれども、このＡといいますのは、年度目標値であります平成 27 年の数値に対して、27 年の実績がどうだったかということで見ているわけなのですけれども、確かにこの数値はＡでわかるのですけれども、年度ごとの数値になりますので、場合によってはこの平成 28 年の数値が出た場合には、目指す姿指標の達成状況が落ちる可能性もあるということでございます。現状値から平成 30 年度までに数値を上げていくことで、毎年度毎年度上げていくことで計画はつくっているのですけれども、実際の数値というのは波がございますので。

○西出専門委員長　わかりました。
　西田委員、いかがですか。２つ目。

○西田委員　資料２に関しての質問をしてもよろしいですか。

○西出専門委員長　はい。

○西田委員　資料２の裏面の左側の一番下の⑦、その他の内容のところなのですけれども、下から２つ目の丸ポツのところに、補助事業の採択基準を満たす応募が少なかったものというふうに書いてあります。これは、例えばどういうものがあるのかということを教えていただきたいのと、これは採択基準自体が余り現実にマッチしていないために、そういうことになったのかどうかというところで、採択基準自体を変える必要があるようなものなのか、それともそういう話ではないのかというところを教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○酒井復興推進課推進協働担当課長　全体的な例として、その他につきましては、この裏面の資料の右側のほうになりますけれども、全体的にこういったものが例示ということで記載があるのですけれども、例えばこの７番の典型的な例といたしまして、受入セミナーの開催回数という事業がございます。こちらの事業そのものは、いわてインバウンド新時代戦略事業ということで、この事業をやることによって受入セミナーの開催回数を達成度指標という形で整理したところだったのですが、実際の状況となってきたときに、県以外の各主体によるセミナーの開催等が充実してきたことから、県としてはインバウンドの事業ではなくて、新たなコールセンターを整備することにしましたということで、指標上はこのインバウンドの新時代の事業そのものについては達成率が低い形にはなっているのですけれども、全体としてそもそもの趣旨からすると、このインバウンドの誘致ということに関しては環境が整ってきているということで、これ自体の遅れとか、そういったことの判断がつきかねるということで、整理上その他という形で、遅れているとか遅れていないとかという指標の考え方から除外しているということで整理しております。

○西田委員　ありがとうございます。

○西出専門委員長　想定していた数が多くはなかったということなのですか。

○酒井復興推進課推進協働担当課長　想定していたものと、またニーズが実際やっていたところと違ってきているとか、ほかに代替するものが出てきたとかといったようなものに関しては、これ自体で復興の状況が遅れているとか遅れていないというのが判断つきかねるところがあるので、それはもう実質的な遅れの指標からは除外して、考え方として整理しているということで、５番、６番、７番といったところがそういった考え方になってきております。

例えば５番の二重債務の対策支援事業なんかに関しても、もともとはこの産業復興機構出資金における二重債務対策を行おうということで考えていたのですけれども、実際のところからいきますと、金融機関のほうからの融資が、借りる方の有利な制度が出てきたりとか、二重債務を解消する以外の手段で本来の目的が達成されてきたようなケースが出てきたということで、そういったものとかは、考え方として、ちょっと実質的な遅れとはまた別な考え方で指標を整理しているというのがこの５番、６番、７番となってございます。

○西出専門委員長　よろしいですか。

○西田委員　はい、ありがとうございます。

○西出専門委員長　指標をちょっと頭の中でイメージできないので、恐縮なのですが、来年、再来年というのは、このようなところはどのようにお考えになるのですか。ちょっと聞いていると、例えば指標そのものが将来においてマッチしているのか否かという問題なのか、それとも指標的にはオーケーで、目標値もオーケーなのだけれども、たまたま今年がレアケースで、来年、再来年はこの指標のとおりやれば、自分たちの政策は客観的に達

成できるというふうに私どもは受け取っていいのかどうかということ、その場合はどうなのですか。

○酒井復興推進課推進協働担当課長　こちらの復興実施計画、第１期の平成 23 年度から 25 年度、あと次の 26 年度から 28 年度の第２期、今現在 29 年度から 30 年度の３期という形になっているのですけれども、１期から２期に移行するに当たっては、大きく指標の内容等は変えなかった関係で、震災当初に想定していた事業ですとか考え方に比べると、集中復興期間である 26 年度から 28 年度を振り返ったときに、果たしてこの指標でよかったのかといった状況が出てきたのは、そういう場面が出てきたのは事実でございます。そういった面もございまして、第３期に関しましては、指標そのものも全体を見直しをしておりましたので、こういった形で整理しなければならないものは、今回の３期の振り返りの段階のときには、基本的にはないか、少なくなってくるだろうというふうには考えております。

○西出専門委員長　ということは、前回の見直しの結果としては、こういうところをしっかりとケアしたので、ここに限って、今後どうなるかというのはまたいろいろあると思うのですが、できる限りにおいてその辺はクリアしながら、指標を再設定したということでよろしいですね。

○酒井復興推進課推進協働担当課長　はい、そのように整理しております。

○西出専門委員長　ありがとうございました。
　今のよろしいですか。

○西田委員　はい

○西出専門委員長　では、遠藤先生、何かございますか。

○遠藤委員　医療・子育て・福祉のほうについてなのですけれども、自殺対策の推進ですけれども、85 ページでは、達成度がＡになっていますけれども、自殺予防の対策協議会といった開催数の達成度がＡであって、内容的にはどのようなものになっていますでしょうか。

○西出専門委員長　85 ページの自殺対策ですね。

○遠藤委員　はい。自殺対策のほうなのですけれども、協議会を開催したことの達成度がＡということでしょうけれども、その会議をすればＡになるわけですか。

○西出専門委員長　指標上はそうですが、あるいは指標としてどう考えるかというところまで考えたほうがよろしいですかね。

とりあえず担当の方にお話を伺いましょうか。よろしいですか。

○中野保健福祉企画室企画課長　自殺対策の部分でございますが、自殺対策については、県、保健所のほかにも、民間の団体と一体となって取り組みをしておりまして、例えば企業訪問や出前講座とかのいわゆる啓発とか、あとは鬱とか自殺予防をメーンとした研修を行っているところでございます。

お話があった協議会については、こういうふうな民間団体、医療関係者、保健ほうからも含めてお集まりいただいて、その中で課題等についてお話をしていただくというような形で取り進めているところでございます。

○竹澤政策推進室評価課長　若干補足をさせていただきます。

85 ページの自殺対策推進協議会等の開催数につきましては、今お話ありましたとおり、目標値を上回っているということで達成度がＡになっております。ただ、ご質問の趣旨としては、協議会の開催回数がふえたからといって、自殺対策が本当にＡなのかという、そういうご趣旨のご質問ではないのかなと思うのですけれども、恐れ入ります。同じ冊子の 80 ページをごらんいただけませんでしょうか。80 ページの中ほどに目指す姿指標、42、自殺死亡率（人口 10 万人当たり）という数値がございます。28 年の実績でございますが、年度目標値の 25 に対しまして 22.8 ということで、目指す姿指標としてもＡ評価になっております。ただ、これにつきましては、ここの下のほうに、下から２つ目のポツのところに、自殺死亡率の達成度はＡとなりました。計画目標値を達成していますが、全国の自殺死亡率 16.8 と比較すると依然として高い水準にあることから、今後さらに自殺死亡率の低下を目指していきますと、このように記載をさせていただいているところでございます。

○西出専門委員長　ありがとうございます。やっぱり難しいですね。外部の人間から見ると、この回数と割合、死亡率の割合とどう因果関係があるのかというのは言いたくなることもあるのですが、かといって取り組みの内容というのを全て網羅しているものとはいっても、このレポートに書き出すとなればページが増えすぎてしまうでしょうというのもありますから、難しいとは思うのですが、これは本当に私もいつも逡巡するところなのですけれども、回数が指標としてあるということを予見とすると、ちょっとその回数の中でどのような活動をして、それがどのように役に立ったのかというのは、文章等で説明があると理想なのだろうなとは思うのです。また、先ほどから申しましたように、そういうこと全てにおいてケアし出すと、この説明書自体が２倍、３倍、４倍と分厚くなり、また皆様方の作業量が２倍、３倍、４倍とふえてしまうので、評価のために時間を割く、事業のために時間を割くべきなのかという、非常に真っ当な話がひっくり返ってしまいますので、申し上げること自体逡巡はするのですが、エントリーがおかしいのであれば、かなりこれは大きな事項であると、大きな関心事項であるというふうに思っていらっしゃるのですよね。この自殺者が大きい話だと、東北全体として大きい話だと思っていらっしゃるからだろうかと思うのです。そういう場合においては、ケース・バイ・ケースとして、余り作業をふやすような話を無責任に申し上げるわけにはいかないのですが、やはり文章等で、こういう協議会の回数をしっかりとこなすことによって意味があるのだというところの説明

があるとよろしいのかなと、このようには思っている次第です。それはそれで感想として、私として申し上げたということで、聞きとどめていただければと思います。
以上です。
何かありましたら。

○竹澤政策推進室評価課長　ありがとうございます。今回見ていただいておりますこの主要施策の評価に関する説明書につきましては、達成度についてあらわした、目標値に対する達成度をあらわした資料ということでございまして、今委員長さんからお話がありました、例えばこの自殺対策についてもう少し詳しくこういった内容をやっていって、今後はこういう内容をやっていく的な説明につきましては、次の政策支援評価を踏まえたこちらの政策評価レポートの中で記載をしていければなと考えております。

○西出専門委員長　ということで、秋にいま一度中身見させていただくという形でよろしいですか。

○遠藤委員　はい。

○西出専門委員長　ありがとうございます。
遠藤委員さん、よろしいですか。

○遠藤委員　はい、いいです。

○西出専門委員長　では、大変お待たせいたしました。

○工藤委員　あえて質問というと、今まで災害とかそういうことで、津波だったり、そういうことも含めてなのですが、去年は岩泉を代表して、でも岩手県内かなり災害がふえているということで、こちらの普通の政策に関する説明書の政策Ⅳのところで、自主防災組織の組織化はなかなか県内で進まなかったというのがあるのですが、これは県で動くのですか、それとも市町村で動き出しているものなのですか。

○西出専門委員長　では、お願いします。

○佐藤総務室管理課長　総務部総務室の佐藤と申します。今自主防災組織の組織化の有無のご質問いただきましたけれども、まず今回なかなか進まなかったというのが、組織率が50％以上の市町村が 26 となったということで、県全体の組織化そのものは、徐々にではあるのですが、率が上がってはきているという状況です。ただ、その中で県北沿岸の市町村、具体的に言いますと、全県の 33 市町村のうち 7 つの市町村がまだ 50％になっていないということで、これを個々に見ていくと、震災で一回自主防災組織が解散したところが再結成をして、十何ポイント上がったというような市町村もございますが、一方でなかなか 40 から 50 の間のところで、50％を超えられないという市町村が多くなっているということで

ございます。
　県とすれば、やはりこれは市町村のほうに具体的に取り組んでいただかなければならないものですので、アドバイザーなど知見のある方を派遣して、具体的に組織化の支援とか、あるいは自主防災組織の活性化に向けて取り組んでいるという状況でございます。

○西出専門委員長　どうぞ。

○工藤委員　自主防災組織の組織率というのは、どういうふうな計算でしょうか。

○竹澤政策推進室評価課長　世帯カバー率ということです。市町村の総世帯数が分母になります。

○西出専門委員長　組織がどれだけ住民をカバーしているかということですね。

○竹澤政策推進室評価課長　はい、そうです。

○西出専門委員長　もう一回説明をお願いします。

○佐藤総務室管理課長　分厚いこの説明書のほうでいきますと、88ページのほうの目指す姿指標というところで、自主防災組織の組織率というのがありまして、今回でありますと、平成28年度の実績が速報値で85.3%となっておりますが、この数字が今評価課長のほうからもお話しがあったとおり組織、世帯カバー率として、パーセント、率を出したということでございます。

○竹澤政策推進室評価課長　総世帯数を分母にとりまして、組織されている地域の世帯数を分子にとって、市町村ごとの世帯カバー率というか組織率を出していくと。その50%以上、市町村ごとの50%以上の市町村数が89ページのところでは30年度に33市町村を目指しましょうということになっていて、28年度は29を目指すことになっていたのですが、26ということでございます。

○西出専門委員長　分母と分子はよろしいですか。

○工藤委員　はい、わかりました。

○西出専門委員長　だから、組織が崩壊していくと、だんだんその組織が各世帯をカバーできなくなってきているというイメージを持つための指標ということですね。よろしいですね。
　ちなみに、今のお話で、私の素朴な質問なのですけれども、ちょっと総務省のほうで私も政策評価と行政事業レビューの委員をやらせてもらっていて、それでちょうど消防組織の話が出たのですが、女性の消防団員とか学生の消防団員の勧誘、あるいはその割合とし

て指標で出して説明を聞いたのですけれども、岩手県ではどうなのですか。学生さん、多分大学生か高校生かな。もしくは主婦の方なのでしょうね、女性の方々が地元の消防団に入って、加入の割合みたいなものを考えるときに、こちらのエリアとしては伸びているのか、伸びていないのか。もしくは、そういうことに取り組んでいるのか否かというところ、もしおわかりになっていれば。急な話なので、わからないとは思いますので、わかる範囲で教えてもらえればありがたいと思います。

○佐藤総務室管理課長　済みません、ちょっと今具体的な数字のところは押さえていないので、お答え申し上げられないのですけれども、やはり消防団、なかなか加入率が高まらないということが、課題と考えておりまして、特にその中で女性ですとか、学生はちょっとどこまでかというのは難しいところがあると思うのですが、そういう観点で、例えば国のほうの消防庁の事業を使いながら、女性の消防団員の確保対策の事業を行う、市町村中心に行っていただくような形ですが、取り組んでおります。

あとは、地域での部分ということでいいますと、公務員、役場とか、そういった部分についても具体的に入っていただけるように、いろいろと働きかけをしているという状況でございます。

○西出専門委員長　では、この案件は市町村レベルで勧誘のほうは力を入れていて、県のほうの消防団とはまた別なのかもしれませんが、組織率を上げていくという取り組みというのは、これは市町村と一緒になってされていると。まとめ、一緒というのは、ちょっとごめんなさい、私のほうでイメージつかないのですが、何か一緒に協議会みたいなのをつくってされているみたいな感じでイメージしてよろしいですか。

○佐藤総務室管理課長　具体的なところは、それぞれの市町村でということになろうかと思うのですけれども、県としましても、協議会というよりは、さまざま勉強会とか、講演会的なものに総合防災室、県の職員を派遣したりとか、あるいはアドバイザーを派遣したりして、確保に向けて取り組んでいるということになります。

○西出専門委員長　ありがとうございました。

工藤委員さん、いかがですか。次の質問は大丈夫ですか、よろしいですか。

○工藤委員　はい。

○西出専門委員長　はい、ありがとうございます。

実を申しますと、質問時間が始まってから 30 分がたっておりまして、時間はかなりスムーズに行っているのですが、てきぱきとやるということになると、先に進めたほうがいいのかなと思っている次第ですけれども、ほかに何か質問はございませんですか。

では、ぱらぱらと見ていて、ちょっと 1 個だけ簡単にお伺いしたいなと思ったところがあったのですけれども、これ代表的な意味合いでお伺いするというふうに聞いていただきたいのですけれども、16 ページなのですが、観光客の入り込みの話なのですけれども、こ

れも見ると 28 年度がいいという話になってくるので、もちろん外部要因が多々あるのではなかろうかなとは思うのですが、下のほうにも理由が書いてあるのですが、このあたりの観光というのは最近非常に脚光を浴びていて、特に海外などという話もあるのですけれども、この数字を上げるために県としてはどのように取り組みをしていて、外部要因の影響、雪の問題等々の影響がかなりあるのであるならば、今後何かそういうことに対して取り組み、外部要因にかなり影響を受け過ぎてしまっているところというのが少し気になるのですけれども、それは仕方ないとしても、このように浮き沈みがある指標の中で、どのようにこの観光のあり方を考えていらっしゃるのかなというのが１つ教えていただけないでしょうか、これは総論的な話です。

もう一つは、非常に細かい話ですけれども、数の計算の仕方、これはどうやって計算するのか。スキー場から何件来ましたということを足し算したりしているのか、市町村から上がってくるのか、観光協会から上がってくるのかとか、この辺、どうやって、誰がカウントしているのか。これは商工労働観光部さんのところになるのですか。お願いいたします。

○阿部商工企画室企画課長　商工労働観光部商工企画室の阿部でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、まず大きなところからお話させていただきます。昨年度大幅に観光客の数が減ったという要因、大きく３点整理をしております。１点目が、雪不足により、スキー場への入り込みが大幅に減ったという、気候の条件でございます。

また、これも気候の経過だと思いますが、ゴールデンウイークの際に、本県では、北上しながら桜を御覧になられる観光客の方が多いのですが、桜の開花時期が前倒しになったということで、その稼ぎ時であるゴールデンウイークにおける観光客の入り込み数も減ったというところが２点目でございます。

３点目は、台風第 10 号の被災ということで、本県の代表的な観光地である龍泉洞が被災をしたことをはじめ、沿岸への入り込みがかなり減ったという点でございます。まさに大きく３点挙げた中、全て気象状況あるいは天候等々、災害によるものという自然要因によるもので大幅に減ったということがございます。

それに向けての対応でございますけれども、やはり物理的にどうしても来られないですとか、そういったことがあるのは何ともしがたいところはあるのですが、例えば冬場のスキー場へのお客様は、雪が降らないから冬岩手に来ないということがないようにしなければなりません。冬場はちょうど日本酒の仕込みの時期でもございまして、ご案内のとおり本県は南部杜氏の里でございますので、おいしい酒蔵がたくさんあると PR する。例えば、冬の時期は、そういった酒蔵めぐりもいい時期ですよといったような、季節季節で楽しめるもの、スキーだけに特化するのではなくて、幅広いお客様のニーズ、あるいは興味関心を持つような旅行商品といいますか、観光コンテンツといったりもしますけれども、そういったものを広く、これも県だけではできないものもありますので、市町村あるいは民間事業者の方々と一緒になりながら、そういった旅行商品、あるいは地域資源の発掘、磨き上げといったものを地道に取り組んでいくことが大切であると思います。

本県の場合は幸いにして、県や民間団体で構成される「いわて観光キャンペーン推進協

議会」という団体があり、JR など交通事業者の方にも参画いただいています。このように、オール岩手の体制が既に整っておりますので、そういった中で「雪不足だから冬来なくてもしようがない。」というようなことのないように、優良なコンテンツづくり、あるいは磨き上げといったようなものに取り組んでいく必要もあると考えています。

また近年の新たな動きとなりますと、ＤＭＯ、地域におけるマネジメント機関ということで、地域をプロデュースして、地域の磨き上げ、発信などをするといったようなものがございますが、本県の場合三陸ＤＭＯということで、沿岸地域のそういった観光地域づくりに資するような組織が立ち上がりました。この４月から商工労働観光部に移管をしてまいりましたので、そういったところも中心となりながら、魅力的な旅行商品をいかにご提供していくかといったような取り組みが今後必要になってくるだろうというふうに思います。

あと、全国的に増えておりますインバウンドにつきましても、全国的なものについては、東北、特に岩手もそうですが、震災前の平成 22 年からの伸び率は全国の状況を下回っていることもありますので、これから海外からのお客様の誘客、それについてもいろいろなところのプロモーションであるとか受入態勢の整備、Wi-Fi であるとか、トイレの洋式化ですとか、そういった受け入れ態勢の整備も今整えながら、お客様を迎えるその他の取り組みをしていくといった状況になっております。

最後に、先ほどの数字の捉え方でございますけれども、冊子 185 ページをお開きください。その中に、184 ページから 185 ページにかけまして、中段のところにＩ、産業・雇用の３、観光産業の振興というところがございます。非常に細かい字で申しわけございませんけれども、こちらのところでそれぞれの資料の出典等がございますけれども、基本的には各観光施設、これはまた数字のご説明が入っているところでございますけれども、基本的には観光施設にいらっしゃった方の数をカウントするというような数字の捉え方をしております。

○西出専門委員長　ありがとうございました。

ぜひとも外部要因に強い影響を受けながらも、それを軽減できるような取り組みを進めていただきたいと思います。

では、数字のところは観光施設から直接県が、それと協会が調べたりするのですか。

○阿部商工企画室企画課長　各観光施設から市町村に数字が行き、市町村から県にという流れになっていたかと記憶しております。

○西出専門委員長　評価課長、よろしいですか。

○竹澤政策推進室評価課長　はい。市町村から県にという流れになります。

○西出専門委員長　ありがとうございました。

それでは、次に移りたいと思います。

（２）その他

○西出専門委員長　それでは、議事の（２）、その他ということで、議事としてその他ありましたらお願いします。特にないようですので、一度事務局のほうにお返しするという形でよろしいですか。

○竹澤政策推進室評価課長　事務局のほうから、その他として用意しているものはございませんけれども、次回の専門委員会についてご説明をさせていただきたいと思います。

第２回の専門委員会につきましては、本年度の政策評価の実施状況をご報告するために、10月下旬から11月上旬に開催をさせていただきたいと考えております。委員の皆様には、後日日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、次回の専門委員会の公開、非公開につきましては、可能であればこの場で決定をいただきたいと存じております。よろしくお願いいたします。

○西出専門委員長　では、この提言の部分でありますが、諸事情を踏まえてということになろうかと思いますけれども、公開、非公開について、具体的な説明をお願いできますか。

○竹澤政策推進室評価課長　次回の委員会の議題であります本年度の政策評価の実施状況については、内容が今回と同様に意思決定の過程に係る審議でございまして、未成熟な情報を多く扱うもので、県議会への報告が済んでいない段階でございますので、次回につきましても例年どおり非公開の開催とさせていただければと考えております。

○西出専門委員長　どうでしょうか。

では、例年どおり非公開という形でよろしいですか。では、非公開でお願いいたします。

皆様のご協力のおかげで円滑に進めさせていただきまして、終了することができました。

それでは、これにて委員会のほうは終了とさせていただきたいと思います。委員の皆さん、ご協力ありがとうございました。

それでは、また事務局のほうにお返しいたします。

３　閉　会

〔事務局から閉会宣告〕